

歯科口腔外科学

1 構 成 員

	平成 24 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	2 人	(2 人)
助教（うち病院籍）	1 人	(0 人)
医員	6 人	
研修医	4 人	
特別研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	5 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	2 人	
その他（技術補佐員等）	1 人	
合計	22 人	

2 教員の異動状況

- 加藤 文度（教授）（H23.12.1～現職）
 長田 哲次（講師）（H15.3.1～現職）
 増本 一真（講師）（H22.8.1～現職）
 渡邊 賀子（助教）（H22.8.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 23 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	1 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	1.89	
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0 編	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	1 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(6) その他（レター等）	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Nagata T, Masumoto K, Watanabe Y, Katou F: End-to-side anastomosis to the external juglar vein:

preservation of external jugular vein blood flow. Br J oral Maxillofac Surg. 50: e31-32, 2011.

インパクトファクターの小計 1.89 [1.89]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 内山佳之、瀬藤光利：【病気の分子形態学】総論 質量顕微鏡. 見本臨床分子形態学会編集 学祭企画株式会社 東京 61-65 2011.

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 渡邊賀子、平野智昭、村口優行、黒野大輔、内山佳之、増本一真、長田哲次、加藤文度：OK-432 局注療法が著効した頬部リンパ管腫の1例. 日本口腔診断学会雑誌 25巻1号 93-97 2012.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成 23 年度
特許取得数 (出願中含む)	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成 23 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	4 件	(598 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

1. 加藤文度 (代表者) 基盤研究 (C) 口腔癌における樹状細胞の役割の解析 208 万円 (新規)
2. 長田哲次 (代表者) 基盤研究 (C) 顕微質量分析による口腔癌の予後および転移マーカーの研究・分子病理診断法の開発 182 万円 (継続)
3. 増本一真 (代表者) 基盤研究 (C) 高分子ナノミセル型インドシアニンググリーンを用いたがん診断・治療技術の開発 65 万円 (継続)
4. 渡邊賀子 (代表者) 若手研究 (B) 口腔扁平上皮癌胞巣内における PD1 陽性 CD8 陽性制御性 T 細胞の役割の解明 143 万円 (新規)

7 学会活動

	国際学会	国内学会

(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

増本一真 第36回日本口腔外科学会中部地方会

増本一真 第54回日本口腔科学会中部地方会

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

9 共同研究の実施状況

	平成23年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成23年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 口腔癌における再建外科

広範囲の切除を必要とする口腔癌の手術において、その術後の機能的、形態的な面から、再建手術を必要とする症例が多い。現在、おもに、軟組織のみの症例に関しては血管柄付き大腿外側皮弁、下顎骨離断が必要な症例に関しては、血管柄付き腓骨皮弁による再建術を行っている。特に、腓骨皮弁に関しては、インプラント植立による補綴処置をすすめており、咬合の回復も図っている。再建により、どの程度の機能回復が見込めるかを検討している。

2. 口腔扁平上皮癌における超選択的動注化学療法の有効性

術前化学療法として、浅側頭動脈から逆行性にカテーテルを留置し、超選択的な動注化学療法を行っている。化学療法による効果、副作用、術後の予後に関し、現在検討を行っている。

3. 口腔扁平上皮癌における免疫細胞の役割

口腔扁平上皮癌において、様々な種類の免疫細胞の浸潤が認められることを、これまでに明らかにしてきている。今後さらに検討をすすめ、将来的には、癌免疫療法等への応用を目指している。